

きょうはなにいろ?  
けるくるーる

第5号

発行:こぎん刺し 絵糸

2014/1/6

<http://kogin-eito.com/>

季節のぜいたく

### ⑤ 御節料理

起源は平安時代。気の遠くなるような

長い年月、祝いの席を飾ってきた料理の  
数々。

豊かな食感はときに私たちに  
贅沢を教えてくれる。すこし気が  
乗らない食事でさえも、傍らの小  
皿に添えられた漬物の歯触りに  
助けられ、ついつい箸が進んで、  
美味しく感じられたりもする。

普段は和洋折衷の食卓が増え、  
特別に家庭で和食の魅力を意識  
することもないが、お正月ともな  
れば話は別。ワインとチーズで家  
族や友人と団欒を楽しむのもい  
いけれど、やはり伝統の御節料理  
なくして日本のお正月は始まら  
ない。

縁起のよい料理に、三が日美味

しくいたただける工夫と手間暇の  
かかったお重は、まるで宝箱のよ  
う。食感もまた多彩につまってい  
る。

ふっくらと煮汁を含んだ黒豆  
は、口に入れると甘い蜜がじゅわ  
り。上手に仕上げた田作りは、魚  
がサクサクして、ぺたりとあまじ  
よっぱい。お煮しめの蓮根のホク  
ホクサククリや、里芋の吸い付く  
ようなモチモチ感。いくらや数の  
子のプチプチ。トロリとよく煮た  
昆布巻のずっしりした重たさ。緑  
ふくよかな旨味がぎゅゅとつま  
っている。

同じ卵を使っている伊達巻  
のふわふわと錦卵のフワフワは  
微妙に違うし、紅白のかまぼこの  
プリプリした歯触りはあとを引  
く。松前漬のねばつるに、栗金  
団のもったりとなめらかな甘さ  
も忘れてはならない。

ちょっと思ひ浮かべただけで

もこんなに多くの擬音が思いつ  
く。なんて面白いのだろう。三が  
日を贅沢に過ごせるのは、まさに  
食感のおかげである。

ちなみに、こぎんの里津軽のお  
正月料理では、鱈のじゃっば汁が  
有名です。ほろほろくずれる鱈の  
身とともに、冬ならではの味が喜  
ばれています。

\*\*\*

和食がユネスコの文化遺産に  
登録されてにわかに和食熱が高  
まる世間をしりぬに、そんなのん  
きな考察で新年を迎えた二〇一  
四年。今年も楽しくカラフルに、  
元気に過ごせますように。

\*\*\*

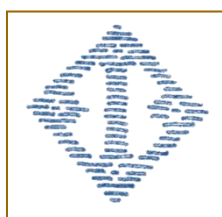
薄黄色のたくあんが二切れ。食感  
の変化に乏しいお弁当の中でか  
なり嬉しい存在であることはま  
ちがいないのですが、困ったこと  
に新幹線の車内ではいつもより  
ポリポリ音が大きく響くような  
……。おっかなびっくりその食感  
を楽しんだのであります。

モドコ・アレコレ  
④ くるみのから

今回のモドコはくるみのから。

お客様に名前を聞かれることもしばしば。

「くるみのから」と呼ばれるモ  
ドコは何種類かあるようで、大小  
さまざまです。大ぶりのモドコは  
蝶々のようにも見ええるでしょう  
か。分解してよく観察すれば花の  
モドコがつながっています。よく  
知ったくるみの実とはかけ離れた  
見た目からか、初めて目にする  
人は名前を聞いても不思議そう  
な顔をします。



くるみのから

\*\*\*

くるみと和えやくるみ餅、くるみ  
豆腐や、ゆべしなど、食材として  
も馴染み深いくるみ。不思議に縮  
れた形をしていて、英語でウォー

ルナツツ。お菓子にもよく使われますよ。独特の軽やかな歯触りと、森を連想させる爽やかな香り、しっとりした脂肪分のココ。どうやら美容と健康にも一役買ってくれると人気のようです。けれど、普段目にするのはくるみの実の中身だけです。採れたての実は分厚くて石のように硬い、ごつごつした鬼殻に覆われています。



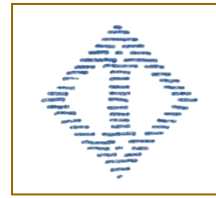
しかし、その殻のまま一晩水につけたグルミを、フライパンなどで加熱してできた隙間から半分は割ってみると……、



しわしわとした隙間にしっかりと身が詰まった、不思議な断面。この断面から竹串などの先で丁寧にとりだしたのが、普段お店で目にするくるみなのです。

こぎんのモドコは、ちょうどこの殻の断面を模したように見えます。くるみのみからにも何パター

ンかあるものの、どれも左右にぎっしり実の詰まった様子です。昔から、くるみは『実り』や『家庭円満』を意味すると言われます。久留美という字を当てて変わらぬ美しく美しさを願うとか。



これも、『くるみのから』

ふうむ。あらためて比べてみても、けっこう本物に忠実です。

\*\*\*

一つずつでも面白いモドコですが、縦横にきっちり並べて組み合わせていくと、角にかくれた花のモドコが四つ集まって、そこがまた可愛らしい柄になりますよ。

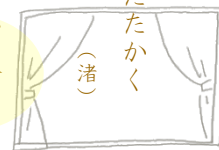


### 一月の一句

帰る家とあなたを待つ人のある幸せ。

街路灯凍つる夜道のあたたかく

(渚)



年の瀬の帰り道。すっかり冷えた夜気に背中を丸め、コートの襟元を立てて駅へと急ぐ。終電も間際というのに、師走の街には人があふれている。ふと目に入った道端の街灯の連なりが冬の空気に映えて美しい。いつもより、どことなく明るく温かく思えるのは、帰る家の団欒を重ねるからか。

### 馬



古来から人間のそばで役に立って来た動物、馬。今年も午年です。「左馬」というのはとくに縁起の良いモチーフとして使われます。「うま」という音をさかさ

まにすると「まう＝舞う」となり祝いを連想するということのようです。また、馬の背には左から乗ると上手く乗られることから万事無事に進む願いを込めたり、左右反転した「馬」の字の形が中着に似ているので金運を呼ぶと言われたり。人を引いてくるという意味で商売繁盛にもつながると言われてきました。

また、北欧で幸せを運ぶと言われる赤い木馬のドラナホースや、こぎんの里弘前がかつて作られていた弘前馬ッコなど、馬の玩具も世界各地の郷土文化として存在します。子どもがすくすくと幸せに成長するようにとの願いが込められているのでしょう。

初めて間近で疾走する馬を見たとき、地面に轟くような足音と、しなやかで力強い体躯に圧倒されました。縁起を抜きにしても、あの生命力には気持ちをおかされるものがありますよね。

### 《編集後記》

本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。☺